

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		キッズすてっぷ させぼ (児童発達支援)		公表日		令和7年 12月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・自由に遊べる部屋と、机上活動に取り組む部屋に分ける事ができる為、適切な広さであるが、さらに細やかな支援の際には仕切りなど使う工夫をしている。	・活動内容を工夫しながら、室内でのプログラムにおいて、子ども達の満足感を感じてもらおうよう進める事は必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・現在いるスタッフで、できる活動を提案しながら、こども達の満足できる事業所を目指したい。	・今後においても、5領域を組み込む支援や、専門的支援実施を行うなど、充実した支援を実施していく為には、ゆとりあるスタッフの配置は課題である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・階段がある為、滑り止めなどを敷くなどの工夫はしている。 ・構造上やむを得ない為、手すりを使用したり、スタッフが一緒に誘導をしている。	・必要に応じて滑り止めの強化を検討。 ・階段の昇降においては、一緒に手をつないで歩くなどの行動のフォローは必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・利用後は、掃除、消毒作業は丁寧にやっている。換気も、できる限りし、感染対策も行っている。	・感染流行時期がある為、情報を収集しながら、感染対策の意識は必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・視覚的に分かりやすいようにしながら、知らせるようにしている。	・使用できる部屋、そうでない部屋がある為、視覚的に分かりやすいようにしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・昨年同様、支援内容、業務内容においては、PDCAサイクルを念頭におき、設定を見直し、振り返りを行っている。	・申し送りやスタッフ間で情報共有など、行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・年に一度、保護者様にも、ご協力を頂き、アンケートを実施している。ご意向を受け止めながら、改善できる工夫をしていきたい。	・スタッフ全員で内容を把握していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎日の朝の打ち合わせ、月に一度議題を決めての会議を行いながら、業務改善を行っている。	・全員参加は難しい面もある。どのようにして、調整していくかは今後の課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現在、外部評価は行っていない。今後の検討課題とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・研修の議題を確認しながら、必要に応じて参加している。	・今後も引き続き、学べる機会を積極的に作っていきながら、進めていく。	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・ホームページに記載されている。	・毎年の見直しは必要に感じる。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・アセスメントの用紙は、法人で統一したものとなった為、やりやすくなった。 ・子どもの様子、保護者様のニーズをお聞きしながら、発達支援課題の整理をして個別支援計画を作成するようにしている。	・保護者様と事業所の課題をすり合わせながら、進めていく事は大切である為、念頭におきながら進めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・個別支援会議では、できるだけ多くのスタッフに参加してもらうようにしている。また、参加できなかったスタッフに申し送りをしていきながら、全員周知をできるようにしている。	・非常勤スタッフへの申し送りは、どのようにしていくか課題である。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・個別支援会議で周知や把握していきながら、共有している。 ・日ごろのミーティングで打ち合わせなど行っている。	・個別支援会議に要する時間などは検討課題である。必要な内容をしっかり申し送りできる場となると良い。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・アセスメント、日々の記録をもとにどのような状況か、確認するようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・ガイドラインに沿った計画作成に努めている。	・ガイドラインの内容を、スタッフに周知できるようにする。 ・会議などを通して、ガイドラインの内容を把握できる場を作っていくようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・スタッフ全員で案を出し合い作成している。その土台を元に、意見を取り入れながら、活動を進めるようにしている。	・意見交換できる、話の場の充実。 ・5領域の内容を取り入れていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・「健康、生活」「運動、感覚」「認知、行動」「言語、コミュニケーション」「人間関係、社会性」5領域を意識しながら、固定化しないようにしている。	・情報収集していく。 ・楽しく学べる活動の場の提供。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		・個別活動、集団活動、専門的支援実施を行っている。ニーズに合わせて、取り組みを進めていけると良い。 ・個々の発達状況に応じて、コミュニケーション面への目標を取り入れた支援計画を作成している。	・個別支援計画書の内容の共有。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・内容の確認、子どもの見守り、役割などを確認し合いながら進めている。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・支援内容においては、その日に申し送りを行い、翌日、支援の内容の振り返り、気づきの点を伝え合うようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・状況、様子、働きかけ、対応なども記入するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・必要な時期に、モニタリングを行い、支援の方向性を見直すようにしている。	・モニタリングだけではなく、家族支援を取り入れながら、保護者の方と一緒に子どもの様子を共有できる場を作っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・主に児童発達支援管理責任者が参加しているが、経験あるスタッフの参加をしていながら、支援の内容と一緒に考えていく事も行っている。	・児童発達支援管理責任者の育成も含め、経験あるスタッフの参加も進めていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・保健、医療との連携はしっかりと行っていないのが現状。まずは、学校や園、相談支援事業所との連携の第一歩を心がけている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	・移行支援を意識しながら、園の先生と情報共有できる場を心がけている。	・どのように連携をとっていくかは、今後も課題。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	・現在は園訪問を通して、情報を共有できる機会を作っている。今後就学後の、繋げる支援を心がけていきたい。	・学校や園の協力も必要となってくる為、どのように連携をとっていくかは、今後も課題。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6		現在行っていないので、今後の検討課題とする。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	・地域との交流は、児童館の行事に参加したりしている。 ・他事業所との交流も、子ども達がとても楽しみにして参加できており、初対面の人への挨拶や礼儀、マナーなど自然と知る良い機会であったように感じる。	・同年齢の交流は、保護者様も楽しみにしている活動でもある為、必要に応じて取り入れていく。

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2	・送迎の場面だけでは、難しい面もある為、モニタリングの時期や必要に応じて伝える場面を作っている。	・昨年度から、新たにできている、家族支援加算を保護者様にお知らせしていきながら、保護者様が気兼ねなく話せる場に繋げていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	・何か役立つ方法など、実践マニュアルなどを見ていきながら、知識として深められるようにしている。	・必要に応じながら、取り入れていく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	2	・利用開始前に、説明している。	・再度、説明が必要な方を確認しながら、進めていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・個別支援計画の案が必須となっており、意向を聞きながら、案をもとに希望などを再確認をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・内容を説明をしながら進めている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	2	・送迎の際にお聞きする時や、家族支援を通してお聞きする場合がある。ニーズに沿って進めるようにしている。	・昨年度より新たに開設された、家族支援加算を活用させて頂き、保護者様が気兼ねなく、話せる場を作っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	・現在行えていない。	・ニーズは様々であり、保護者様の意向をお聞きしながら、進めていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・家族支援加算を活用していきながら、保護者様と一緒に子どもの様子を話し合える場を作っている。	・家族支援加算、子育てサポート加算を周知していきながら、気軽に話せる場所を提供していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2	・ホームページのブログやラインなどを通して活動の様子、行事の様子などをお伝えしている。	・新規のご利用者様には、すぐにご案内ができない場合もある為、適切なタイミングで、しっかりと周知できるようにしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・施錠を行い、確認を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・聴覚に障害のある子どもにおいては、周囲の子どもや大人も意識できるような活動を取り入れている。(手話、指文字など) ・ルールの見える化を取り入れている。	・分かりやすいような視覚支援は、どのような場面で必要か、スタッフ間で再度共通認識は、必要に感じる。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	・現在行っていない。	・地域の方からの理解、協力も必要な時もあるかと感じる為、今後の検討課題。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		6	マニュアル策定しており、定期的な訓練も実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		6	・委員会も設置しており、事業所内にて周知、報告の研修を行っている。 ・訓練も行っている。	・様々な想定をしながら、訓練方法を検討していく事は必要。備蓄においては、どこまで必要か確認は必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		6	・定期的に服用するものにおいては、服薬書に記載して頂き、服用している。2名のスタッフ間で間違いがないか確認をしながら進めている。 ・てんかん、熱性けいれんの坐薬においては、医師の指示書をもとに行動するようにしている。	・安全に利用して頂くために、保護者様、医療機関との連携は必要。また、実際の動きなどの訓練は必要に感じる為、実施検討は必要。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	・アセスメントで、必ず確認を行う様にしている。	・現在、対象の方はいませんが、今後対象の方がいる場合は、医師の指示書においては、確認をしていきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		6	・安全計画は、作成している。 ・ホームページに記載されている為、保護者様へ周知をしている。	・日々の業務の中で、必要な事柄などを整理していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		6	・保護者の方へ周知している。	・周知は行えているが、連携をどのようにしていくか。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		6	・ヒヤリハット報告書を作成して、振り返るようにしている。	・会議などで、過去の事例を振り返り、再度注意していく事は必要。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		6	・必要に応じて研修への参加を行うようにしている。 ・事業所内での研修も行っている。	・研修内容を、事業所内にて周知、報告、研修を行うようにする。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		6	利用契約時に身体拘束に関する説明を行い同意書を頂いているが、原則身体拘束は行わない。		